

【寄宿舎】

1 実践内容

個別の生活指導計画の目標の三領域（「生活習慣」、「コミュニケーション・社会性」、「健康・安全」）の中から一人1項目ずつ主体性につながる目標を選択し、男子棟、女子棟共に、今年度様式を新たにした個別の生活指導計画の項目にリンクさせたPDCAサイクル表（今年度様式を変更）を用いて、より効果的な支援を考えながら取り組みを進めた。毎月の研究会では、PDCAサイクル表を基に棟毎に話し合いをもち、支援方法について検討してきた。

7号室	中学部 3年			
・母より運動する習慣を身につけてほしいという要望あり。				
領域	計画 (P)	支援内容 手立て (D)	記録 (C:評価)	改善 (A)
健康・安全	適度に運動する習慣を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 声の掛け方を工夫する。（目標を聞く、何をするか聞く、誘いたい生徒を聞く、聞くタイミングなど色々と試してみる） チェック表を用いての意識づけ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「みんな」という単語を用いると体育館へ行くことが多い。 TVを視ていても、約束の場面になると職員へ報告して、運動に取り組むようになった。また、チェック表に日々の目標を記載することで、見通しを持ちやすくなり自主的に取り組めるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 声掛けの継続 チェック表の継続と目標数の調整。

4号室	中学部 2年			
・顔に水がかかることが苦手で、洗顔や洗髪を嫌がる。家庭ではなかなかできないため、それをまず第一に取り組んでほしい。				
領域	計画 (P)	支援内容 手立て (D)	記録 (C:評価 A:改善)	
生活習慣	・洗顔ができるようになる	<ul style="list-style-type: none"> 泡やお湯が顔にかかる恐怖心を和らげるために、タオルを本人のすぐ側に準備することや、シャワーを使い素早く流すことで不安な気持ちが長引かないことを伝える。 声をかけるタイミングを少し遅らせ、本人のアクションに対し肯定的な声かけを増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> C:手のひらで水をすくうことが出来ない。 C:タオルに水を含ませることで、手のひらを使い水をすくう意識が育ってきた。 C:お風呂場では、シャワーを使い泡を流すことにも挑戦できている。 C:シャワーで流すことに慣れ、時間をかけずに洗顔に取りかかることが出来るようになった。 A:取りかかりが良くなり、ソフトすぎる洗い方にも改善が見られた。 	

14号室	高等部 3年			
<ul style="list-style-type: none"> 職員の促しに応じて行動することはできるが、促した場所と本生徒が向かう場所が違うことがある。 発語での意思表示はなく、目的の場所に職員を連れて行き、願いを叶えてもらおうとする。 DVDをみたり、テレビをみたりすることを好む。 「今はできない」ことを受け入れることが難しく、強引に目的の場所に向かおうとすることがある。 				
領域	計画 (P)	支援内容 手立て (D)	記録 (C:評価 A:改善)	
基本的な生活習慣	・「今は何を(できる)時間」で、「次は何を(できる)時間」か、見通しを持って生	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードを用いた日課表を用意し、経過した時間の絵カードを外していくことで、先を見通せるようにする。 好きなことができる時間(DVD視聴) 	<ul style="list-style-type: none"> C:日課表(絵カード)をよく見て確認し、動き出すことができた。また、「今やりたくない」という気持ちを、表すことが少なくなった。 	

	<p>活することができる。</p>	<p>を、日課表に適度に組み入れ、励みにする。</p>	<p>A：時々日課表を見に行き、DVD視聴の絵カードを外し、手にしている様子から、楽しみにしていることが感じとれた。</p>
--	-------------------	-----------------------------	--

2 反省

(1) 成果

- ・ 事例の中にあるが、運動する習慣を身に付けることを目標に取り組んだ生徒については、声掛けや場面設定を工夫しながら、棟の職員が同じような方法で支援することにより、チェック表で確認しながら、自主的にステッパーの運動に取り組むことができるようになってきた。
- ・ 毎日継続して行うことで定着を図ることを目標に、棟での当番活動の一環として洗面所掃除に取り組んだ生徒については、棟の職員間で手順の共通理解を図り統一した声掛けを継続することで、当番が割り振られていない日（帰舎日等）にも、自ら気付き、掃除をする姿が見られるようになった。
- ・ コミュニケーション面で、改善につながった生徒も見られた。その場に相応しくないような表現が減り、より適切な表現の仕方を身に付いたことで積極的に周りの人と関わることができるようになってきた生徒や、共通の話題や趣味を通して周囲との関わりや会話が徐々に増えたことで、自信につなげることができた生徒など、それぞれが小さな変化を実感することにより、伸び伸びと、そして、生き生きと生活することができるようになってきている。
- ・ 日々の棟会では宿直明けからの報告が中心となり、研究に関して深めていくことは難しかったが、毎月の研究会を通して個別の生活指導について話し合うことができ、棟全体で確認して個別の生活指導計画を作成してきたことが成果につながっている。
- ・ 行動記録を基にした棟会での話し合いが共通理解につながった。
- ・ 棟会の中で、目標や支援方法の見直しなどを行うことができた。PDCA サイクル表の様式については記入しづらい面もあったが、話し合いのためのツールとして活用することができた。

(2) 今後について

- ・ 行動記録、PDCA サイクル表については、個別の生活指導計画を軸に活用し、今後も支援に役立てていきたい。
- ・ 行動記録については今年度用いた様式の PDCA の枠組みを外し、記録ファイルに個別の生活指導計画の目標を掲示し、常に把握および活用できる様にしたい。
- ・ PDCA サイクル表の様式については、記入しづらいという意見も出されたので、棟毎に記入しやすいよう様式の調整や工夫を加えより活用しやすいものにしていきたい。併せて、記録の仕方についても検討していきたい。
- ・ 人数の多い棟からは、月一回の研究会の中では、児童生徒全員について話し合うことが時間的に難しいという意見が出されたので、棟会や研究会の進め方については、更に工夫や検討が必要と思われる。